

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
薬学		(リ) 必修 (人) 選択	1	(リ) 2 (人) 2,3	後期(前半)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
榎本 温	C302	satoshi.kashimoto		随時	
授業の目的・概要	<p>目的：本科目では、「薬物」が疾病に効くメカニズムを理解する。同時に、臨床現場でよく見られる疾病とその治療に用いられる代表的「薬物」の知識を身につける。臨床現場では、高度化する医療ニーズに対応するために医学の基礎を身につけていることが求められており、「薬学」を含む専門基礎科目群基礎医学はその基盤となる知識を提供する。</p> <p>概要：基礎的な薬理学の教科書を用いて、疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進と薬物のかかわりを解説する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	疾病と障害、そこからの回復に影響を与える薬の作用について、ヒト(自分)の体で起きる具体的なイメージとして理解してほしい。1年次の「生理学」や「病理学」、2年次の「整形外科学」、「内科学」などで学ぶ知識と関連付けながら理解することが特に大切である。				
教科書	いちばんやさしい薬理学/ 監修：木澤靖夫/ 成美堂出版/ 2020				
参考書	FLASH 薬理学/ 丸山敬 著/ 羊土社/ 2018				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	薬物の代謝について理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
②	薬物の作用と作用メカニズムを理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
③	薬物の安全性や取扱いについて理解し説明できる。			HSU(2), (3), (5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	薬学で学ぶこと。薬物とその作用の概要。	講義 課題	教科書 P10～40	3	
2	神経系に作用する薬	講義 課題	教科書 P42～70	4	
3	呼吸器・消化器に作用する薬	講義 課題	教科書 P71～102	4	
4	循環器・血液に作用する薬	講義 課題	教科書 P103～126	4	
5	炎症・免疫系・抗腫瘍薬	講義 課題	教科書 P128～142、P213～230	4	
6	抗感染症薬	講義 課題	教科書 P143～176	4	
7	内分泌系に作用する薬・その他	講義 課題	教科書 P192～212	4	
8	泌尿器・眼科系の薬・その他	講義 課題	教科書 P177～190、P231～242	3	
試	定期試験				

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		100					100	
総合 力 指 標	知識・技術力	80					80	
	思考・推論・創造する力	10					10	
	協調性・リーダーシップ							
	発表・表現伝達する力							
	コミュニケーション力							
	取組みの姿勢・意欲							
	問題を発見・解決する力	10					10	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	定期試験では、授業で紹介・説明した項目のうち、臨床において重要と思われる項目を出題する。教科書の各章末にある「まとめ」を利用して、重要項目を確認・理解した上で試験に臨むこと。				試験問題を返却することによって、自らが学習できる。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	山梨大学麻酔科医として 28 年間、公立病院の院長として 9 年間、看護専門学校校長職を 4 年間行っている。							
実践的授業の内容	実践的授業の内容：現場での体験をまじえた講義を行う。							
そ の 他								